

コミュニケーション学部報（2019年度）

1. 専任教員

教授	池 宮 正 才
	大 岩 直 人
	駒 橋 恵 子
	佐々木 裕 一
	柴 内 康 文 (学部長)
	田 村 和 人
	中 村 忠 司
	中 村 嗣 郎
	長谷川 倫 子
	南 隆 太
	本 橋 哲 也
	山 下 玲 子
	山 田 晴 通
	大 榎 淳
北 村 智	
北 山 聡	
小 林 誠	
小 山 健 太	
松 永 智 子	
光 岡 寿 郎 (教務主任)	
ピーター・ロス	

准教授

2. 客員教授

安 斎 利 洋
板 谷 和 代
米 澤 伸 弥

3. 特任講師

林 剛 大
吉 田 達

4. 特命講師

新 井 一 央
金 杉 朋 子

5. 非常勤講師

稲 葉 哲 郎
井 上 俊 也
エバノフ恵智子
大 谷 安 宏
河 井 大 介
草 野 清 子
久保田 淳
鈴 木 麻利子
高 野 敦 伸
鳥 海 希世子
原 島 大 輔
藤 井 達 也
堀 正
水 野 裕 子
森 津太子

6. 学生が選ぶベストティーチャー賞表彰

・受賞者
小山健太

【参考】東京経済大学コミュニケーション学部
「学生が選ぶベストティーチャー賞」実施要項
2015年4月1日 制定

1. 目的

東京経済大学コミュニケーション学部は、以下の目的をはたすため、「東京経済大学コミュニケーション学部ベストティーチャー賞」を設ける。

(1) 教育実践において学生から高い評価を得た学部教員を「ベストティーチャー」として表彰する。

(2) 「ベストティーチャー」の高く評価された点や授業ノウハウを教員間で共有し、教育水準の向上を図る。

2. 賞の英文名称

本賞の英文名称は、Best teacher awarded by students とし、「BETAS」を通称とする。

3. 賞の授与

本賞は、学生アンケートの回答をもとに、以下の点について評価の高い教員を年に1回選出、表彰するものである。

(1) 授業において、卓越した指導力で教育効果の高い授業を実践した者。

(2) 教育方法の工夫又は改善に取り組み、顕著な教育成果をあげた者。

(3) その他、ベストティーチャー賞にふさわしいと認められる者。

受賞対象者はコミュニケーション学部教員(コミュニケーション学部生が履修する授業担当者)とし、非常勤教員を含む。

受賞者は原則、1名とする。

4. 選考手続き

(1) 学生アンケートの実施は、ベストティーチャー選考委員会が行う。

(2) 実施手続きは上記選考委員会が別途定める。

(3) アンケート結果をもとに上記選考委員会が受賞者を決定する。

5. 選考委員会の構成

(1) 教務主任

(2) 学部専任教員(若干名)

(3) その他、学部長が指名する者
委員長は委員の互選とする。
任期は1年とする。

6. 表彰

受賞者には表彰状を授与する。

7. 選考結果

大学のウェブサイトを受賞教員名、授賞理由を公表する。

7. 卒業制作・卒業論文表彰

・最優秀賞(1点)

村上優衣「化粧品に関するインターネット上の口コミの有効性」〈論文〉

・優秀賞(11点)

永瀬はるか「『晴空』(音楽制作)」〈制作〉

浅見麦「『入れ物』,あるいは『言葉の壺』」〈制作〉

滝島涼太「日本人の方言に対する意識と方言の将来性について」〈論文〉

大澤駿弥「ファッション業界に聳え立つ“ジェンダーという壁” —セグメント化されたファッション市場の抱える課題と希望—」〈論文〉

増田小梅「地域創生における「よそ者」の存在～隠岐島でのフィールドワークから見てきたこと～」〈論文〉

古賀愛未「大学生におけるキャリアカウンセリングの心理的ハードルと就職活動の満足度」〈論文〉

越智まゆみ「聞き書きで綴る東京経済大学管弦楽団の創設(1982)とその変遷 —なぜ大学でオケなのか—」〈論文〉

岡田純子「『nicola』の分析から見るジュニアファッションの変化」〈論文〉

風岡昇汰「女性地下アイドルとファンの関係性の考察」〈論文〉

武内渚「限定商品における消費者心理と企業戦略」〈論文〉

山本レジーナ「フィリピンの海洋リゾート地における汚染の現状と対策 —ボラカイ島とボホール」〈論文〉

<p>8. 東京経済大学コミュニケーション学部・ 大学院コミュニケーション学研究科調査・実 験等研究倫理小委員会報告</p>			2019-03	小林 誠	ツバルの変化する気候, 景観, 文化に関する人類 学的研究—首都フナフチ 環礁におけるタロイモ栽 培に注目して
承認番号	申請者	研究課題名			
2019-01	山下玲子	日本人のメディア利用と 日本人意識・コスモポリ タニズム意識の関係	2019-04	小林 誠	ツバルの変化する気候, 景観, 文化に関する人類 学的研究—キオア島の生 業活動を中心に
2019-02	山下玲子	日本人のメディア利用と 日本人意識・コスモポリ タニズム意識の関係 (2): インタビュー調査 を通じて	2019-05	北村 智	現代日本社会における中 高年齢層の情報行動の分 析